

# ミサゴ便り

平成 14 年 4 月 20 日発行

弓削野鳥の会編集発行



華麗な美しさ・ヒレンジャク

頭には冠羽、地味な色彩なのに尾の先は真紅で、はっとするような高貴な美しさ、図鑑では見たことはあるが、こん

なに近くでまさか見ることができるとは思ってもいませんでした。

3月の中旬、三山にて初めて遭遇しました。いつものように仲間と

観察していると、平山さんが遠くに一羽のヒレンジャクを発見、し

ばらくすると、10羽ぐらいの群で飛

び立ちました。後を追いかけてましたが、

とうとう見逃してしまいました。しか

し、なんとなんと、幸運にも私たちの



真上の樹上にその群れは、どうぞ撮ってくださいとばかりにポーズ

をとって留っているではありませんか。嬉しかったですね。私はここ

ぞとばかりにシャッターを切りました。プリントアウトして見ると

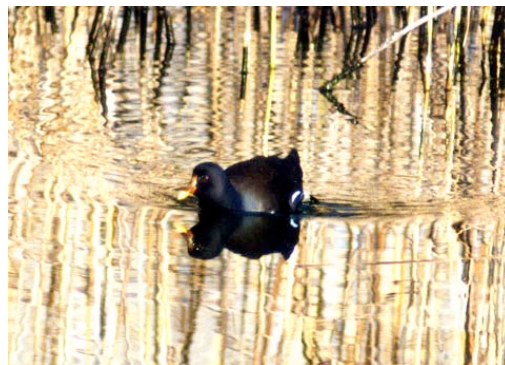
3羽ともヒレンジャクでした。1羽ぐらいキレンジャクがいれば最高だったのに、まあそれは欲張りすぎかな。出会えたことだけでも満足です。また逢える日を楽しみにしたいですね。(写真はヒレンジャクと、まさか三山で遭遇するとは予想だにできなかったミソサザイの写真です。)

皆さんお元気ですか。

埼玉県春日部市 谷井宣子

明るい日差しはすっかり春です。ほっと空を眺めて羽が生えるか、雲に乗れたらいいのにと考えてしまいました。いつも「ミサゴ便り」ありがとうございます。だんだん立派になってきて、皆様の活動の様子を楽しみに読ませて頂いています。あれもこれもと懐かしいことばかりです。皆様からバードウォッチングや自然観察の楽しみ方

を教えて頂い  
とても豊かな  
今では旅に双  
て、いつでも



て、その後の生活が  
気持ちになりました。  
眼鏡は必需品となっ  
重くても持ち歩いて

います。2月には8日と24日の2回、古利根川へ水鳥を主とした「野鳥観察会」に参加しました。古利根川は結構大きな川で近隣の町を流れている歴史ある川です。参加者は30~40人と多くぞろぞろと歩いて鳥のほうに逃げたように感じました。観察できた鳥はカイツブリ、カワウ、ゴイサギ、アオサギ、ユリカモメ、カル

ガモ、コガモ、マガモ、オナガガモ、ヒドリガモ、ハシビロガモ、イカルチドリ、イソシギ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、カワラヒワ、オオバン、バン等で中でもオナガガモとヒドリガモが沢山いて美しかったです。何回か参加しているうちに少し識別が出来るようになったようで、初参加の方の会話をそっと耳にしてちょっぴり自分の方が上等になったかな？と自負しています。(……笑い)

陸の方ではヒ  
キジバトばかり  
が見えたら大騒  
えたと「ミサゴ



ヨドリ、ムクドリ、  
です。ジョウビタキ  
ぎで、珍しい鳥が見  
便り」ものとなるこ

とでしょう。弓削ではよく観察できたし、逃げずに近くへ来てくれた可愛い鳥でした。それでも時おり観察した時は、嬉しくて思わず「弓削から来たのか」と声を掛けたいほどでした。最後にこのオオイヌノフグリの写真は、昨年3月に狩尾で写したものです。一面に咲いていて空と海と三拍子の青、忘れがたい景色です。弓削の景色を確かめに行きたいと思いつつ「ミサゴ便り」に心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

**寄付御礼** 谷井宣子様より「ミサゴ便り」の発送費として切手をたくさん寄付して頂きました。紙上より厚くお礼申し上げます。

3月の初旬、バードウォッチングの道すがら、ふと足元に目をやると、薄紫色に輝く可愛い花を発見しました。とりあえず写真をと



って、帰って早速、野草ガイドブックを開いてみると、タチツボスミレとのこと、春の山野に咲く最も一般的な早咲きのスミレでした。(スミレ科・多

年草(10~15cm)で木質化した地下茎が横に這い、枝分かれする。)

鳥はいつも忽然と姿をあらわす。(・・・と、話はいつも忽然と始まる。)何も居なかったはずの空にハヤブサが、サシバが、ノスリが、ミサゴが、はたまたハチクマが・・・視野に入ってくる。何も止まっていなかった筈の梢に、オオルリが、キビタキが、ヒレンジャクがいきなり姿を現す。鳥たちにとっては日常である挙措が、わが目には、あたかも忍者の振る舞いの如くの、あれっ?あれっ?



の連続なのである。それがまた、嬉しい。バードウォッチングの楽しさは、忽然と現われ、忽然と姿を消してしまう鳥たちの振る舞いに、諾々として快哉を感じることはないだろうか。双眼鏡(コレ

は目の補聴器だ) という名の文明の利器がもたらす世界の新鮮さは  
(味わったことのない人には上手く伝える方法を持たないのだ  
が、・・・) 幼児が初めておのが目で外界の物事に接した時の驚きに  
匹敵するだろうと思う。人の五感の中で「観る」という、あるいは  
「見える」という感覚については普段はその有り難さには無頓着だ。  
たいていの人は「見えるのが当たり前」なのだから。ところがこの

「当たり前」  
いるのは、実  
最初的一部分、  
んの一部の  
そこであえて



の恩恵を被って  
は人生のほんの  
そして人類のほ  
者でしか・・・ない。  
言ってみる。五感

の(視る、聞く、匂う、味わう、触る)それぞれの分野で、補助機  
器を使えば、忘れていた感覚に再度巡り会える事を実感できるのが、  
自然観察会の醍醐味ではないだろうか、と。何年前か前、バードリス  
ニング(鳥の声を聞く)を企画したことがある。視覚障害者と一緒  
にバードウォッチングとリスニングを楽しんでみませんか、という  
企画だったけど、その後継続する事態にはならなかった。この企画  
は素晴らしいもので、もっと試行を繰り返せば、とてもいい前例と  
実績に成長する可能性があった。「個」の楽しみから「公」の楽しみ

へ。これは「共に生きる」という思想なのだ。「聞く」という行為は様々な場面で重要な働きをするが、加齢とか、その他のせいでその能力を減衰しつつある人たちともバードウォッチングの楽しさを共有できれば素晴らしい。そのためには企画実行者には、五感がまっとうなのは、子供の時のみという発想が必要かもしれない？誤解を招く言質だが、これは当時を振り返っての感慨、反省から発している。



る。そうは言いつつ、これからの山野に木霊する小鳥たちの囀りを全ての人が共有できるならば、まさに伝典にある極楽というものであろう。

瀬戸内の小さな島で始まった小さな探鳥会ではあるが、きっかけは偶然ひとりの物好きがいたからである。同じようにその物好きと同心した物好きが居たわけである。故に、この会をおとなしいままで終わらせてはならない。バードウォッチングにはいろいろなアプローチがあるだろう。中でもたくさんの方が参加できる会を目指すことは、何はともあれ私たち自身の「元気の源」にはなるだろうと、これは堅い祈りにも似た信念だ。(写真はツグミと三山頂上から望む因島大橋)

【鳥の名一口メモ】ジョウビタキの方言名も個性的である。翼にある白い紋からモンツキドリ(紋付)、紋がダンゴの形なのでダンゴジョイ(団子背負い)、紋がそろばんの玉に見えるのでソロバンドリの名があった。また、この鳥は広島地方でテラノババの名で呼ばれた。テラは「銜う・気取る」の意味だ。頭が白く紋付を着た美しい鳥なので、「白髪のお洒落な婆さん鳥」と言った。

岩手の滝田です。

滝田 一 郎

ご無沙汰しています。皆さんお元気ですか。いつも弓削野鳥の会の会報ありがとうございます。さて、私このたび一関市立一関公民館を離れ、4月から国土交通省東北地方整備局“北上川学習交流館”の企画担当次長として勤務することとなりました。4月4日にオープンする施設で、まったくゼロからのスタートで、大変そうです。それでは、今後ともよろしくお願ひします。

花泉町ネットモニターNo.14 [netmon14@mx5.et.tiki.ne.jp](mailto:netmon14@mx5.et.tiki.ne.jp)

滝田一郎 (財) 日本野鳥の会北上支部 TEL090-2997-2007

#### 編 集 後 記 (弓削野鳥の会事務局)

安物のレンズ (600mm~1000mm) で写真を撮り始めて5ヶ月程になります。なかなかいい写真は撮れませんが、タイミングにも助けられて何とか引き伸ばしても見られるような作品が、少しずつアルバムに残るようになりました。今年は出来れば弓削野鳥の会でホームページを作成したく、現在検討中です。楽しみにしててください。

#### 【観察記録等の投稿のお願い】

(自然観察に関する原稿、たとえば、植物に関する原稿、海の生き物に関するもの等何でもかまいませんのでお寄せください)

連絡先：弓削野鳥の会事務局 (村上尚) 77-3607まで